

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170400709		
法人名	有限会社 ソラ		
事業所名	グループホーム 笑顔の村		
所在地	札幌市手稲区稲穂2条6丁目3番8号		
自己評価作成日	平成22年9月15日	評価結果市町村受理日	平成22年11月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は、民家改修型の定員8名の小規模なグループホームで、家庭的な雰囲気の中で、心穏やかに充実した日々を送れる様に全職員で取り組んでいます。利用者一人ひとりの要望等を尊重し、居酒屋や銭湯、お盆にはお墓参りに行っています。天気の良い日は近隣のスーパーに買物に行き、町内の夏祭りや敬老会、仮装大会などへ積極的に参加させていただき、地域の方々との関わりを大切にしています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0170400709&SCD=320
-------------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3番地北1条ビル3階
訪問調査日	平成 22 年 10 月 20 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

複数のグループホームを運営する法人が、平成14年に最初に開設した当ホームは、住宅改修型のため、居室の複雑な配置など構造上の問題点も有りますが、ホーム全体が親しみのある家庭的雰囲気に満ちており、利用者は職員との家族同様の交流の中で、明るく、ゆったりと過ごしています。ホームは地域との交流にも力を注ぎ、町内会会報にホームの紹介や災害時における協力要請の記事が掲載されたり、利用者や職員が種々の町内会行事への参加や地域住民の方々から物品を頂くなど、ホームと地域の一体感が醸成されています。利用者へのケアサービスも、管理者と職員の努力によって分かりやすく見やすい独自のケアプランが作成され、全職員の共有となっており、家族も職員のケアサービスに満足し、安心して利用されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を常に念頭に置き、ミーティングの際に、理念の重要性や実践についての取り組み方、地域交流の意義についての話し合いを行っている。	ホームは、地域との協調を含む独自の理念を持ち、これを全職員の共有としています。日常においても、職員は理念を意識しながらケアサービスに努めています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事（焼肉大会、仮装盆踊り大会等）には、積極的に参加し、職員は地域の方々や利用者が円滑に交流出来る様環境を作っている。	ホームは積極的に地域との連携を進め、各種町内会行事への参加、町内会会報でのホーム紹介、散歩中の挨拶や装飾品を頂くなど、日常的に周辺住民の方々との交流があります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で出席者（町内会会長、家族代表等）と話し合いを行い、連携を図っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、事業計画の報告、自己評価の説明、行事計画の報告等を行い、意見を取り入れて、より良いサービスの提供と情報の公開を行っている。	運営推進会議は定期的開催され、ホームの運営状況報告や災害時への協力要請等、参加者による活発な意見交換が行われています。	運営推進会議は順調に開催されていますが、積極的に外部からの意見を多数頂くため、会議のメンバーを町内会関係者、民生委員、老人会、教育関係者などによる増員を期待します。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	入居状況に変更があれば、その都度市町村担当者と連絡を取り、情報交換を行っている。	運営法人や管理者が行政担当者と常に連絡を取っており、現地指導で担当者の訪問もあります。さらに、管理者会議で行政関係者との情報交換も行っています。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	常に利用者の人権を守り、身体拘束をしない為の取り組みとケアのあり方をマニュアルを使用して、ミーティング等で話し合い、より良いケアが出来るよう取り組んでいる。	身体拘束をしないケアのマニュアルも完備し、関連研修も実施しています。玄関は日中も施錠していますが、利用者の意思で利用者が施錠を管理しており、外出の際は、利用者が自由に施錠を解除して出入りができます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	事業所独自のマニュアルを作成している。全職員は、高齢者虐待防止に関するマニュアルを基に十分な理解を図り、虐待の防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性に関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者と職員は、権利擁護や成年後見制度の理解に努め、利用者が活用するための話し合いや関係機関への橋渡しが出来るような体制が整っている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、時間をかけ分かりやすく説明している。利用者やご家族の希望や疑問点を聞き入れ、十分理解し納得を得た上で契約の手続きを行っている。			
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族から意見や要望等が出た場合、全職員がミーティングで話し合い、対応策を検討し、ケアの反映に努めています。	家族からの意見や要望は、ホーム来訪時やお便り等で把握しています。要望等があった際には、ミーティング等で検討し、ケアに反映させるようにしています。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、いつも職員に声を掛け、意見や要望に耳を傾け、話し合いを行いサービスの質の向上に努めている。	代表者や管理者は、職員の意見や要望を把握するよう努めており、今年から職員との個別面談の場を設けながら、積極的に提案等を聞くようにしています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	常に代表者は、職員の勤務状況を把握しており、いつでも相談等気軽に出来る関係であるよう努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は、事業所内外の研修に参加し、技術や知識等を身につけ、ミーティングで報告の場を設けて質の向上に取り組んでいる。			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	区の勉強会があり、ミーティングにて内容を報告し、サービスの向上に活かしている。他の施設に問い合わせが出来るような関係作りを行っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前に面談を行い、職員は利用者の状況や日常生活、不安や悩み等を把握し、ミーティングで取り上げ円滑なコミュニケーションが図れるように取り組んでいる。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	職員は、ご家族の利用者に対する思いや希望等をしっかりと聞き、受け止めるように努めている。何でも気軽に相談できるような環境作りを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の思い、状況をしっかりと確認し、支援している。希望等速やかに実行出来るよう関係機関と連携を図ってサービスの提供に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者は、人生の先輩という事を念頭に置き、人権を尊重し共に過ごしながらコミュニケーションを図り、和やかな「和」が構築出来る様に配慮している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の日常生活をご家族に詳細に伝える事により、職員とご家族が一緒になって利用者を支え合える関係を築いている。ホームでの生活を毎月お手紙で伝えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人や友人など馴染みの深い方々に訪問して頂いている。昔懐かしい場所や思い出話を聞く事により、穏やかな気持ちになれるよう支援しています。	利用者が家族や知人に会いに行けるよう支援し、墓参りにも職員が同行するなど、馴染みの方や場所との関係を継続できるよう努めています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は、利用者同士の人間関係を把握しており、レクリエーションや行事等、孤立しない様に対応し、穏やかに暮らせるような支援をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了した後も気軽に相談できるような関係が続いている。入院している利用者のお見舞い等へ行き、ご家族へ電話連絡しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の生活に対する希望や思い等の把握に努め支援しています。困難な方は、その人の立場や視点に立った意見をミーティングで話し合い検討している。	利用者と職員との日常的交流の中で、利用者の思いや意向を把握していますが、把握が困難な時は表情や行動で判断し、利用者本位の支援をしています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用開始前にはご家族やご本人に生活歴や馴染みの暮らし方を聞き取り、現在の生活に反映出来る様に取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの生活リズムや体調の変化に十分気を配り、情報を共有出来るような体制が整っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族からの希望や意見を取り入れ、職員全員でカンファレンスやモニタリング、アセスメントを行い、計画作成担当者や介護経験に長けている代表者を交えて介護計画を作成している。	ケアプランは、ミーティング等で職員全員の共有とし、モニタリングやアセスメントで随時見直しをしています。また、ケアプランは全員で内容を検討し、分かりやすく見やすい内容の独自のプラン表を作成しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ひとつひとつの事柄を詳細に記録し、職員間での情報の共有に役立て、内容を理解した上でケアに反映させ介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族の要望を最大限に受け入れるように連絡調整している。柔軟に対応できる体制が整っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの協力体制が整っている。消防署の協力を得て、避難訓練や防災訓練を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関において、日常の受診や訪問診療を利用している。利用者の体調などに異変がある場合は、24時間体制でかかりつけ医と連絡がとれる体制が整っている。	24時間連携の協力医療機関による定期訪問診療がありますが、利用者のかかりつけ医の受診も支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の健康状態について、看護師に随時相談や連絡が取れ、医療的なサポートを受ける事が出来る体制が整っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換を密にし、ご家族との連携を図り、早期に退院できる環境を整え、職員はお見舞い等で利用者の状況や情報を得て、安心して過ごす事が出来るように連携している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針を作成しており、ご本人、ご家族、医療機関との話し合いを行い、終末期に向けたチーム全体としての支援体制が整っている。	重度化や終末期の指針を作成し、利用時に家族へ説明しています。また、利用者の重度化等の際には、医療機関とも十分な連携を図りながら対応しています。	重度化や終末期におけるホームの対応指針に基づき、家族へ説明し理解を頂いていますが、さらに重度化等発生時についての意思確認書や同意書を家族から頂くことについて検討を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変や事故発生時の対応について、職員はいつでも見ることの出来る場所に掲示してあり、ミーティング等で周知徹底している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難マップを作成し、災害時の避難経路や場所を把握し、迅速かつ安全に避難出来る体制が整っている。運営推進会議や町内会行事等で地域の人々に協力を得られるよう働きかけている。	ホームでは年2回の避難訓練を実施し、運営推進会議や町内会へ災害時の協力要請をしています。町内会報にもホーム紹介と災害時の協力要請が掲載されています。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常から利用者への声掛け、言葉遣いに十分配慮し、プライバシーの確保を徹底している。	職員は、利用者に対する言葉かけやケアサービスの際に人格尊重やプライバシーを損ねないよう配慮しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が決めた事等を押し付けず、利用者の意思を最大限に尊重し、自己決定できるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が利用者とは話を通じながら希望や思いを受け入れ、利用者のペースを大切に柔軟に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行事や外出時に服装の身だしなみやオシャレを楽しんでもらえるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	無理せず出来る範囲の中で、食事の準備や後片付けをしてもらっている。好きなメニューを把握し、希望に応じて献立を作り、楽しい食事の時間を過ごされている。	食事準備や後片付けは、利用者と職員が共に話し合いながら行っています。食事メニューも利用者の希望に応じて随時変更し、楽しく食事が摂れるよう努めています。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	職員全員が利用者一人ひとりの栄養バランスや水分量を考えながら支援している。状況に応じ、希望される飲み物やゼリーを作り、提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの重要性を理解し、一人ひとりの習慣や有する能力を活かしながら支援している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の生活時間やリズム、習慣を把握している。羞恥心に十分に配慮した声掛けでトイレ誘導する事でオムツの使用をなくしトイレでの排泄を促している。	トイレの排泄自立者が多いホームですが、さらに利用者一人ひとりの排泄パターンを記録し、状況に応じて支援しています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日ラジオ体操や軽運動を行い、自然排便を促している。食事の工夫や状況に応じて、毎朝牛乳や水分を多めに飲んで頂けるような取り組みを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	毎日入浴が出来る体制を整えている。時間や希望を聞き、ゆっくりとくつろいだ入浴が出来るように配慮している。	入浴を好む利用者が多いため、毎日の午前と午後に入浴が可能であり、週に2回～4回の入浴を楽しんでいます。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの日常生活の活動を把握し、休息や睡眠がとれるように支援している。天気の良い日は布団干し等を行い、安眠出来るよう工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護記録に服薬一覧表を添付し、いつでも内容を把握できるようにしている。変化がみられた場合は協力医療機関と連携をとり対応している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者との会話の中から楽しみ事を見出し、役割や趣味等を無理なく活かし、自分らしく暮らせるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出の希望が出た場合は、安全性を考慮し付き添って外出の支援をしている。会話の中で行ってみたい場所を聞いた場合は、実現に向けた計画をミーティング等で検討し実施している。	天候の良い時期には、日常的に散歩や買い物に出かけています。さらに、車両、JRを利用して温泉入浴、外食、墓参り、町内会行事への参加など、出来るだけ外へ出る機会を確保するよう努めています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者一人ひとりの希望や能力や状況に応じて、お金を自己管理したり、使えるようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が電話をしたいと希望された場合は、いつでも電話を使用出来るように支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者一人ひとりの感覚や生活観を大切にし、居心地良く過ごせるような環境作りをしている。	住宅改造型のため、居間兼食堂等は若干狭いですが、明るく親しみがあり、家族的雰囲気のある共有空間となっています。2階のテラスは広いいため、プランターや鉢植えで植物や野菜の育つのを利用者は楽しみにしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	二階のテラスにベンチチェアを設置し、いつでも外を眺めたり、お茶を飲む等穏やかに過ごせる空間作りをしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の生活スタイルを大切にし、使い慣れた物を使用したり、好みの物や写真等を置く事により、穏やかに過ごせるよう配慮している。	居室は形態がそれぞれ異なりますが、十分なスペースがあり、利用者は使い慣れた物品等を自由に持ち込み、居心地良く暮らしています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの分かる力を見極めて、不安や混乱が起こらないように環境面での工夫に取り組んでいる。		